

## 後志利別川・太櫓川のカワヤツメ漁獲時期と漁獲量の日変動について

北海道内河川でのカワヤツメの漁獲は1980年代後半には年間100トンを超えていましたが、その後大きく減少し、2013年以降は1トンに満たない状況にあります。その中で比較的安定した漁獲をあげているのが道南の瀬棚郡内水面漁業協同組合で、2017年には道内の漁獲の100%を占めるに至りました（図1）。

さけます内水試では内水面漁業の実態調査の中でカワヤツメの年間漁獲量を継続して調査していますが、漁獲時期については調査しておらず実態は全く不明でした。そこで2015年から瀬棚郡内水面漁協の協力を得て、カワヤツメ漁業者に直接アンケート調査を行い、日別の漁獲尾数を調べました。当漁協では後志利別川と太櫓川の2河川でカワヤツメ漁業を行っていますが、後志利別川4名、太櫓川3名から回答が得られ、以下の結果が得られました。

図2に両河川の月別の漁獲尾数を示します。図から両河川とも漁獲時期は8～12月であることがわかります。カワヤツメには産卵のため秋に遡上する群と春に遡上する群がありますが、当漁協では秋遡上群を漁獲していることが判明しました。月別に見ると後志利別川では各年とも9～10月の漁獲が多く、太櫓川では2017年を除き10～11月の漁獲が多い傾向にありました。両河川は河口が5キロ程度しか離れていない近郊河川ですが、漁獲時期が異なるのは興味深い現象です。

図3に各年の日別漁獲尾数の変化を示します。両河川とも漁獲数の日別変動が大きく、特定の日に大量に漁獲されることがわかりました。今回のアンケート調査結果は大部分が「どう」と呼ばれる筒状の漁具で漁獲されたものですが、漁業者からお話を伺ったところ「どう」は漁獲期間中毎日見ているが増水時などに急に大量に入るとのことでした。漁

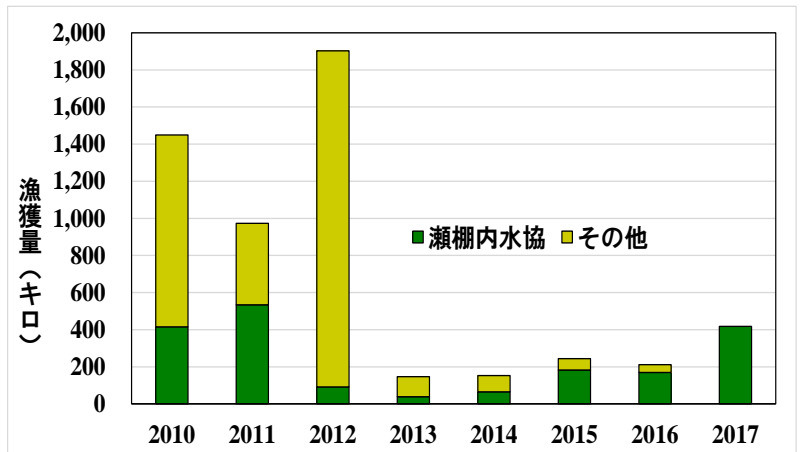


図1 北海道のカワヤツメ漁獲量とその内訳

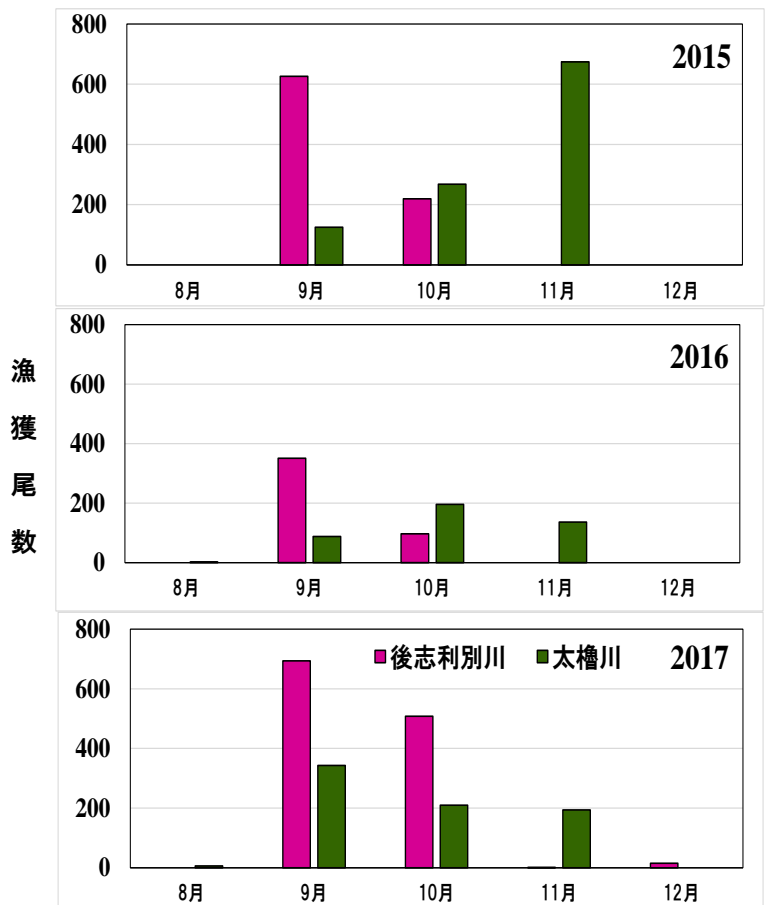


図2 後志利別川と太櫓川の月別漁獲尾数

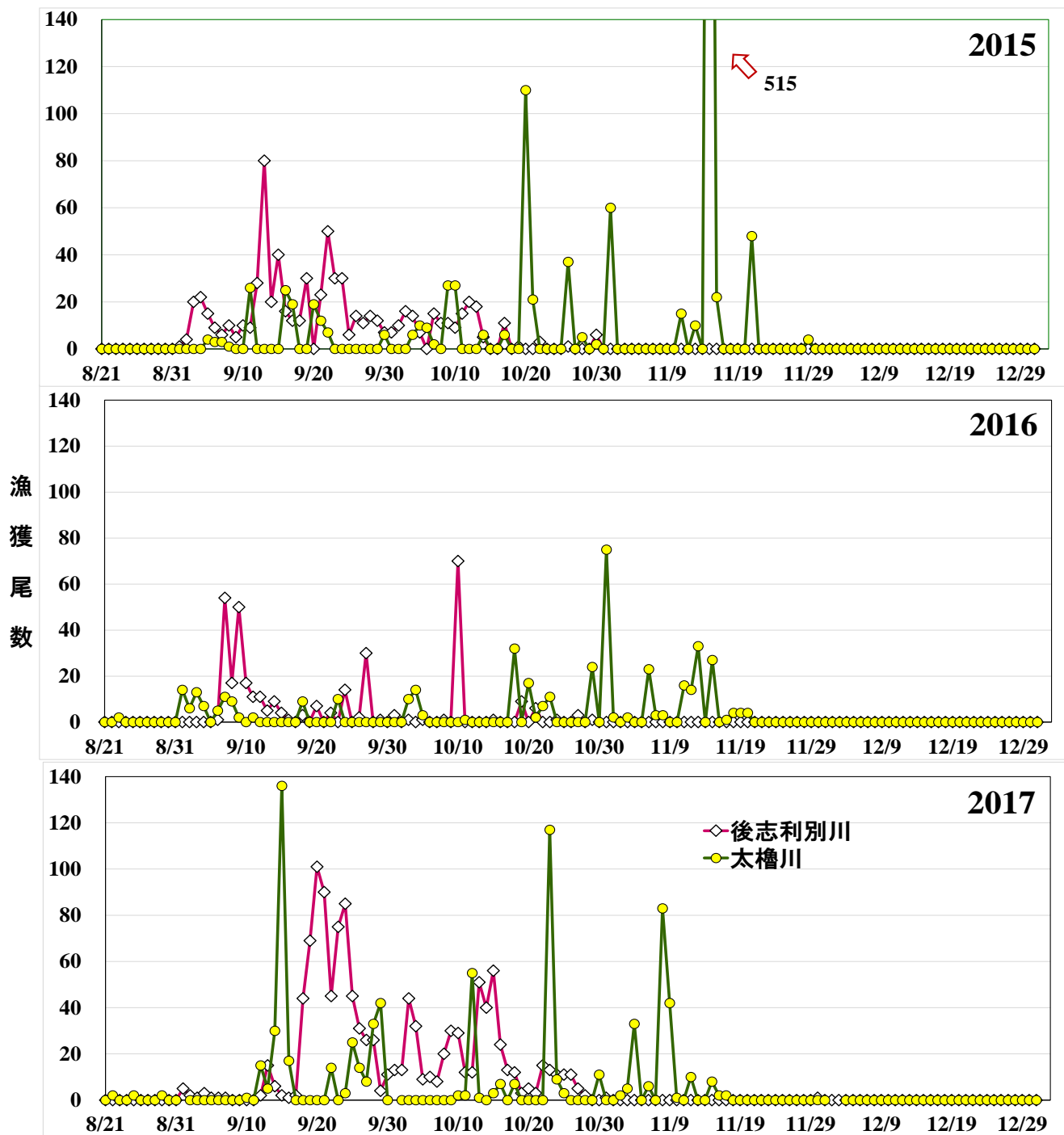


図3 後志利別川と太櫓川の日別漁獲尾数

獲の日変動が大きいのはカワヤツメの河川内での移動の状況を反映しているのではないかと考えられます。カワヤツメの河川内での生態についてはこれまで不明な点が多く、また漁獲時期に関する情報もほとんど知られていませんでした。今回、3カ年にわたって漁獲時期と漁獲の日変動の情報を得たことは貴重な知見と言えます。カワヤツメに限らず、河川漁業を安定的に継続していくためには対象魚種の基礎的な知見を収集することが先決です。さけます・内水面水産試験場では今後も本調査を継続しカワヤツメ漁業の安定化につなげたいと考えています。

最後に本調査に快くご協力いただいた瀬棚郡内水面漁業協同組合の皆様にお礼申し上げます、本文のむすびといたします。